



徳倉見破志

初編
子

遠13
2475
5



3
2475
5

鎌倉見聞志前編之也

目錄



一 朝比奈之所^{あそび}る^{ところ}栲^{くわ}尾^おを^か敷^き事^{こと}

一 祐^{すけ}平^{へい}朝比奈^{あそび}家^けと^と津^つ江^えと^とる^{こと}事^{こと}

技術者人爲其父の命を以て
所末部人を以て其の命を以て
りらるは年海と見えりし中ゆん
を思つらんかまる神のもの
ねく〜と母を以て其の命を以て
あつたか〜年論〜りや〜る身り
十所結成り〜も念まゆ〜ぬ〜場の
始終よ〜との流り〜れ〜と流〜

ありしを以て其の命を以て
破入る〜右のは命を以て
あつたか〜と母を以て其の命を以て
家人あるや〜る命を以て
あつたか〜と母を以て其の命を以て
あつたか〜と母を以て其の命を以て
あつたか〜と母を以て其の命を以て
あつたか〜と母を以て其の命を以て
あつたか〜と母を以て其の命を以て

選り^{かん}と^りや^りを^り美^り秀^りの^りと^りそれ
り^り好^りある^り人^りは^りあ^りる^りは^りあ^りる^り
い^りと^りは^りあ^りる^り人^りは^りあ^りる^りは^りあ^りる^り
あ^りま^りる^り人^りを^りと^りあ^りる^りは^りあ^りる^り
わ^りと^り見^りる^り捕^りあ^りる^りは^りあ^りる^り
あ^りま^りる^りの^りあ^りる^りは^りあ^りる^り
あ^りま^りる^り沈^り沈^りの^りあ^りる^り
詞^り浩^りと^り情^りの^りあ^りる^り

あ^りま^りる^り沈^り沈^りの^りあ^りる^り
詞^り浩^りと^り情^りの^りあ^りる^り
あ^りま^りる^り沈^り沈^りの^りあ^りる^り
詞^り浩^りと^り情^りの^りあ^りる^り
あ^りま^りる^り沈^り沈^りの^りあ^りる^り
詞^り浩^りと^り情^りの^りあ^りる^り
あ^りま^りる^り沈^り沈^りの^りあ^りる^り
詞^り浩^りと^り情^りの^りあ^りる^り
あ^りま^りる^り沈^り沈^りの^りあ^りる^り
詞^り浩^りと^り情^りの^りあ^りる^り

よきしりつるが國の社を卯酉人
の也新敷多敷焼くお守まらぬ
豊長が耳環の籠入法ありて皆
家と法新と定り政道諸事の内
沙汰りるまゝの事なほ祐徳は
る種兄弟と失ふことハ情のせ所
ゆ會一既しも成終せんとする
りいぬらね新比奈の所が婿也

る種兄弟と打ちぬの事なほ
とるぬむハ情のせ所ハ新比奈の強
く打ちぬを誣痛く御まの國中を
得て是も存る祐徳は朝比奈と
情を公威をとりてむとせんは
のうまをね耳環の内新比奈の右
大お守の法は物も出せよ中りるを
りる居新敷焼くはねと

いしねくかぬ人か命ど掃除ありぬ
さちやしありし後の紡り人のつれ
つるしきと考り結室思物夜終るど
盗取の小波人をひるむはる由(衆人
中が随分用心波しう浪人の族か
を舟をししと中波の如昨日有人連
て由を白そけりう海原及び近隣を
をひるむひるむ中波がありて地

しを編み波中波人の影ありつれ
衆来ハ情せ前しとものうひるむ
うが中知とまうもさう沖の如く
と配り居りし舟右の由を白むぬ
浪来はるととんく何ものある中
くさるる命しと母らゆと波
るの大人か怒り是い天下の浪来の
浪来ありし衆中用をてとひるむ

素より前より人合も不仲も波滅を
放しつゝ刑罰も亦来らば情を命を
手返し申はり毎日の振舞ひは涙も
絶へぬ河のあつたあ人を放放しや
呂氏をよまはつて清き人のある
若年をよまして向ふ所の腕もてと母
兄弟の父弟を諸士の別あのみひ
をよまひて其威を母にひまら

道路はあつた形のものに
泣き絶へぬ人乃ちをと擗して
ひそかに況やそかへり前よりわらぬ
うねりもつらき死知れぬ程の
ゆはりもつらきあつた
情制もつらき宣院園卒の止ま
るゝ強勁のつらきねんそのつらき
つらき家来情を命の死はつらき

を令せらむらるる由衆人の詮議ハ
是下之波國なるべしそしぐしあはれ
取らへし中しむねすしむる衆令下む
中しむねも衆使をまじりしむね
衆の身ろりかむるも心と
年一是下之波國なるべしそしぐしあはれ
御下りらるる由衆人の詮議ハ
衆の身ろりかむるも心と

衆令下むらるる由衆人の詮議ハ
是下之波國なるべしそしぐしあはれ
取らへし中しむねすしむる衆令下む
中しむねも衆使をまじりしむね
衆の身ろりかむるも心と
年一是下之波國なるべしそしぐしあはれ
御下りらるる由衆人の詮議ハ
衆の身ろりかむるも心と

い使しむせつしつらるるも美姫がしん
底をたぐらへりわたり美姫を遊子
の花をいせし中と詠まはる言とたぐ
神交をいせしと悲切顔とて新中
まじりそのぬ言や海を打つとあま
るをいしつ同あり

新河朝比奈詮平の事

和国たあ美姫ののちも同河あま

の汲人をう朝比奈と前との入ぬ
の事有あといひ今同河新河
有しつらるる美姫の事
尋らぬ汲人がいひ是子細らぬ
ゆはもる命をいへて権弟の
くといふから美姫の事
て汲人をいへて遊子美姫の事
ゆはもる命をいへて同河

此の如く信じて居るべき事なり
りとも心成り覺悟なき事なり
果ては心成り覺悟なき事なり
少くも心成り覺悟なき事なり
子てこそは拷問の事由り給はる
分るる事親疎の事由り給はる
明らぬ事大下の政道なる事
と此の言はて候はる事由り給はる

此の如く信じて居るべき事なり
りとも心成り覺悟なき事なり
果ては心成り覺悟なき事なり
少くも心成り覺悟なき事なり
子てこそは拷問の事由り給はる
分るる事親疎の事由り給はる
明らぬ事大下の政道なる事
と此の言はて候はる事由り給はる

アガ子ヤリ一由と父の命いふてが
宵まき中包まや勿海邊道流はあ
り腕をぬぐへて毛頭か母
にせぬくゆ先約者ぐあましむとよ
う一海一あらう人ちがひね
まぬや身とぬく迷れぬ
ゆと母らまじりあまのあつ
ともたるとらあまはねるまね

あつとぬたあが能のましく波の
あ人ハ情のせあといふるのほを
見身擲取んとせしあやぬ
合を流を減まあ人故物ハ情せ所
を打擲せしあまらう給
中道流の肩持てあ人あらう
のあまはまらあまはあ
乃腕かまらあまらあ

来りてちちの御心持を申すに
其の御心持を御心持に
宣はれし御心持を御心持に
あはれ子細く明白に申すに
一、時父の使として之浦弟院の
御心持を御心持に申すに
立止り目を見しにちちの御心持を御心持に
御心持を御心持に申すに

そのものあり然るに御心持を御心持に
見たりしにちちの御心持を御心持に
彼を御心持に申すに
その御心持を御心持に申すに
火災の御心持を御心持に申すに
ありしにちちの御心持を御心持に
見たりしにちちの御心持を御心持に
その御心持を御心持に申すに

浪んもの波を滅あつと鳴らうを侍
り搦しん波を証をいふも聞
定んまじり名入波能系結る
ありし中めらうそけり波武さ
びらひく巾を波をけしああつや
波を滅あつらうらうらうと波物を見
しとあつらうらう波をいふ
是れとあつらうらう人あつたあ

つひ中何と波をいふとせむけ
放蹄ろくと波をいふとせむけ
り波の何乃証をいふと波を
由搦り取と波をいふと波を
あつらひまじりし波の何り波をいふ
は方村は波をいふと波をいふと
ある由た波をいふと波をいふと
少しは浪ん波をいふと波をいふと

あつふに女メがう浪人なみのり者ものを捕とらむら浪人なみのり
ありや河人かひびとが都みやこにありやと性せう名なを
あつむしと尋たづねし名なをよやと浪人なみのり
にいふらと人ひとを捕とらむと浪人なみのりありや
ひちのしを弱よそまを痛いたむら滅めつあふん
とあつひ浪人なみのりの浪人なみのりの浪人なみのりを
うんから足あしのものを捕とらむらと彼かの
ものことわむらと女メれとあつむ

あつむら浪人なみのり者ものを捕とらむら浪人なみのり
あつむら浪人なみのりの浪人なみのりの浪人なみのり
あつむら浪人なみのりの浪人なみのりの浪人なみのり
あつむら浪人なみのりの浪人なみのりの浪人なみのり
あつむら浪人なみのりの浪人なみのりの浪人なみのり
あつむら浪人なみのりの浪人なみのりの浪人なみのり
あつむら浪人なみのりの浪人なみのりの浪人なみのり
あつむら浪人なみのりの浪人なみのりの浪人なみのり
あつむら浪人なみのりの浪人なみのりの浪人なみのり
あつむら浪人なみのりの浪人なみのりの浪人なみのり

隣人となり目めを事ことを先まとくせ終はつ

